

## 目指すはV 6日決戦



紫  
光

## 連覇へ攻守に安定

最多優勝を誇る紫光は、今大会も安定した戦いで勝ち上がった。準決勝までの5試合すべてで複数得点を挙げ計22点と攻撃が好調で、うち4試合は雪封と守りも堅い。

基本技術と選手個々の発想を重視したチーム作りを目指し、試合ではピッチを広く使って相手の裏を突く展開で攻める。長谷川佳弘監督は「選手がそれぞれの役割を出せるよう意識している。今大会では後ろがしっかり守って前が生きる状況を作れて、点が取れたのが良かった。決勝でも自分たちの力を100%出してほしい」と期待した。

サンガカップ  
第38回  
京都市少年サッカー



選手権大会

決勝と3位決定戦が6日、西京極陸上競技場で行われる。2年連続18度目の優勝を目指す紫光と、3年ぶり3度目のVを狙う太秦Aが、府内124チームの頂点をかけて激突する。栗と長岡JFCJによる3位決定戦は午後0時30分、決勝は午後2時にキックオフされる。(小西貴久)

## 積極プレス持ち味

太  
秦  
A

太秦Aは4回戦以降の3試合が1-0、1-0、PK戦勝ちと、粘りと勝負強さを発揮して勝ち上がった。本井幸児監督は「4回戦の大住には別の大会で負けていたの自信になった。以前はリズムが悪いと下を向いていたが、落ちついてできるようになった」と手応えを話す。

前から積極的にプレスをかける迫力が持ち味。今季は紫光にも敗れており、決勝は雪辱の舞台になる。本井監督は「力は相手が上だが、粘り強く対応したい。ボールを奪った後のカウンターが鍵。連動して速い球回しで崩したい」とらむ。

